悩まない心をつくる人生講義

チーグアン・ジャオ（趙啓光）　町田晶＝訳

第1回　現代タオイスト宣言

> 無為とは、あまり重要でないことはやり過ごし、大事なことに集中すること

学生「先生はタオイストですか」

趙「タオイストと括られるのは好きじゃない。古代タオイズムの思想やその著作はもう歴史的なものだからね。タオイズムの影響を受けてはいるけど、心は縛られていないから自由にはばたける」

学生「新しいタオイズムの実践って何ですか」

趙「古代タオイズム思想を見直して、儒教、仏教など他の学説を取り入れ、現代科学も結びつけながら現代人の問題を解決し、夢とうつつの間、生と死の間、現在、過去、未来の間、無為と無不為の間の精神状態を明らかにしようとすることだよ」

無理に何かをしない無為とすべてを為す無不為。これこそ現代人が生活上の色々な問題に対して取るべき態度である。時間の存在と重要性を疑ってみよう。「無」とは「ない」ということであり、「為」とは「行為」という意味である。だから「無為」とは「無理にやらない」または「何もしない」ということであり、「無不為」とは「すべてやる」ということである。否定を意味する「不」にさらに「無」をつければ二重否定となるからつまりは単純に「為」ということで、「すべてをやる」または「何もやり残さない」という意味を強めている。

「無理に何かをしない」無為とは、自然や宇宙の法則に従うことだ。世の中のすべては宇宙の中で起こっている。もし神秘的な自然の法則に従えば毎日が奇跡でいっぱいになる。

無為とは知であり、人生に対し「おまえを信じる、やりたいようにやればよい」と言うようなものだ。無為を習慣にすれば、人生は思わぬ奇跡をかえしてくれる。

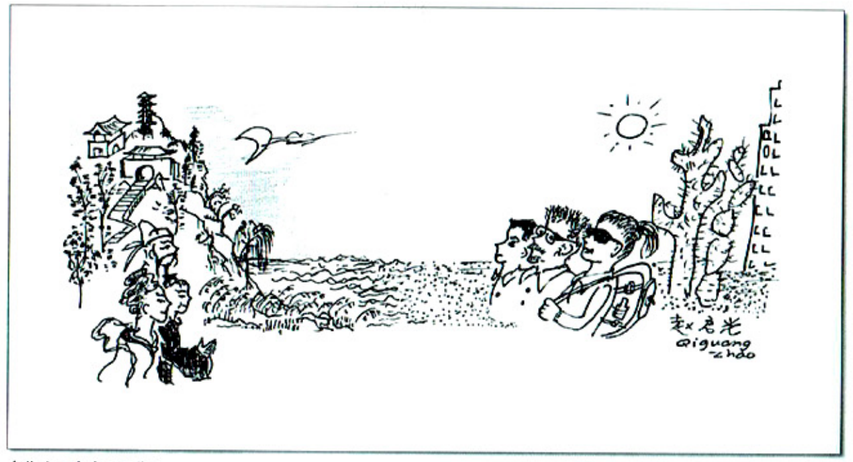
無不為（すべてのことを為す）とは、良い習慣を身につける創造的な行為である。人生の中で出会う初歩的な問題にいちいちわずらわされる必要はない。数学者が定まった方程式を用いればいちいち証明などしなくても良いように、一度習慣にしてしまえばそれで足りるのである。

無為とは謙遜である。誰もが夢を持っていること、すべてのものには持ち主がいること、自然も社会も法則に従っていることを知ることである。無不為とは様々な法則の中を自由に進む勇気である。

チーグアン・ジャオ　北京出身。カールトン・カレッジ教授、同済大学特別招聘教授、清華大学客員研究員などを歴任。中国社会科学院大学院で英米文学修士号、マサチューセッツ大学で比較文学博士号取得。著作に"A Study of Dragon, East and West"、"Do Nothing & Do Everything"、『古道新理』、『老子的智慧』、『世路心程』、『客舟聴雨』など。2015年3月、マイアミでの遊泳中の事故により永眠。ミネソタ州の「スター・トリビューン」紙で「北極オーロラの星」と評価された。

町田晶　日中翻訳学院修了。東北大学文学部東洋日本美術史専攻、東北大学大学院文学研究科中国哲学専攻。学生時代の一人旅で中国文化の奥深さと中国人の温かさに触れたことから本格的に中国語を学ぶ。翻訳得意分野は思想、哲学、文学、食文化等。

無為とはすべてがうまくまわっていることを知る喜びである。何かをすることを拒むことが無為ではない。余計なことをしないのが無為である。無為とは無駄がないことであり、無不為には欠かせないものである。あまり重要でないことはやり過ごし、大事なことに集中する。無為によってはじめて無不為が可能となるのである。



古代人に出会う現代人　　画：チーグアン・ジャオ

無為は元気の秘訣、悩みを捨てれば健全な心と体でいろんなことができる。

他人の考えは尊重するが、それを盲目的に受け入れたりはしない。誰しも自分の考えというものがあるのだから、簡単に人の考えに同調したりはしない。

夜空で無心に輝く星々のように、人のことばかり気にせず、人の不幸を喜ばず、人の成功に嫉妬せず、人との格差に怒らない。

人は孤独だ。何か考えたり感じたり、行動する時、我々と外界の間には溝ができる。世界に向かって対話し、耳をかたむけ、観察し、その中に身を置く。しかし、逆巻く波の上にそそり立つ懸崖のように、自分の真ん中につねに「道」を据えよう。ちゃぶちゃぶとしたさざ波にも、ごうごうと荒れ狂う嵐にも、懸崖はびくともしないでいよいよ高さを増す。タオイズムという拠り所があれば、襲い来る波にも押し返しがたい潮にも静かに応じることができる。

思考を支えるのは肉体であり、その肉体は通常心によってコントロールされている。しかし、人が等速運動をすると、肉体は生理反応により信号を発し、心を宇宙の運動法則に近づけさせる。

それは雲の中を浮遊し虹の上を歩くような現実を超えた世界だ。

この世界は新しい考え方や生き方をずっと待ち望んできた。我々が望むのは古の呼びかけに答える新しい声と新しい癒し、そして言葉をこえたコミュニケーションスタイルだ。

我々は頭でっかちの学者ではない、知識を人生に生かす芸術家だ。いにしえと現代の間のつながりを取り戻そう。机上の空論やくだらないロジックをやり過ごし、忘れられた静かな世界を楽しもう。

広い意味での愛を求めよう。それは恋人に対する愛ではなく、階級や民族に対する愛でもない。宇宙全体に広がるすばらしい概念に対する愛だ。この愛は、この世の試練に立ち向かおうとする人にとっての導き、示唆、支えとなる。健全でバランスのとれた考え方、生き方、応じ方、あり方はここから生まれる。

どのように力を抜き、どのように無為となるかを我々は知っている。なぜなら、はるかかなたの星々が頭上に静かに輝くのも、地球が24時間で1回転するのも、みな無為無不為のあらわれだから。宇宙がそうなのだから人も同じだ。我々は、何の迷いもなく無不為を実現する方法を知っている。なぜなら人はこの世を通り過ぎる旅人にすぎないのだから。

"パンを手に入れることはもとより大事だが、その美味しさを楽しむことはもっと大事だ"

比較文化学者であるチーグアン・ジャオ氏が、身近な例から老子の人生哲学をわかりやすく解説した一冊。『よりよい老後』のために心身ともに無理を重ねる現代人に向け、老子の教えをもとに、肩の力を抜いて自然に生きることを勧める。

(2016年4月、日本僑報社刊)